

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2017年3月期 経営方針

2016年5月2日
オリンパス株式会社
代表取締役社長執行役員
笹 宏行

2016年3月期実績

- 連結実績：営業利益は8期ぶりに1,000億円を超え、当期純利益は過去最高を計上
- ROEは16CSP※経営目標の15%を上回る（2016年3月期実績 約17%）

事業環境認識

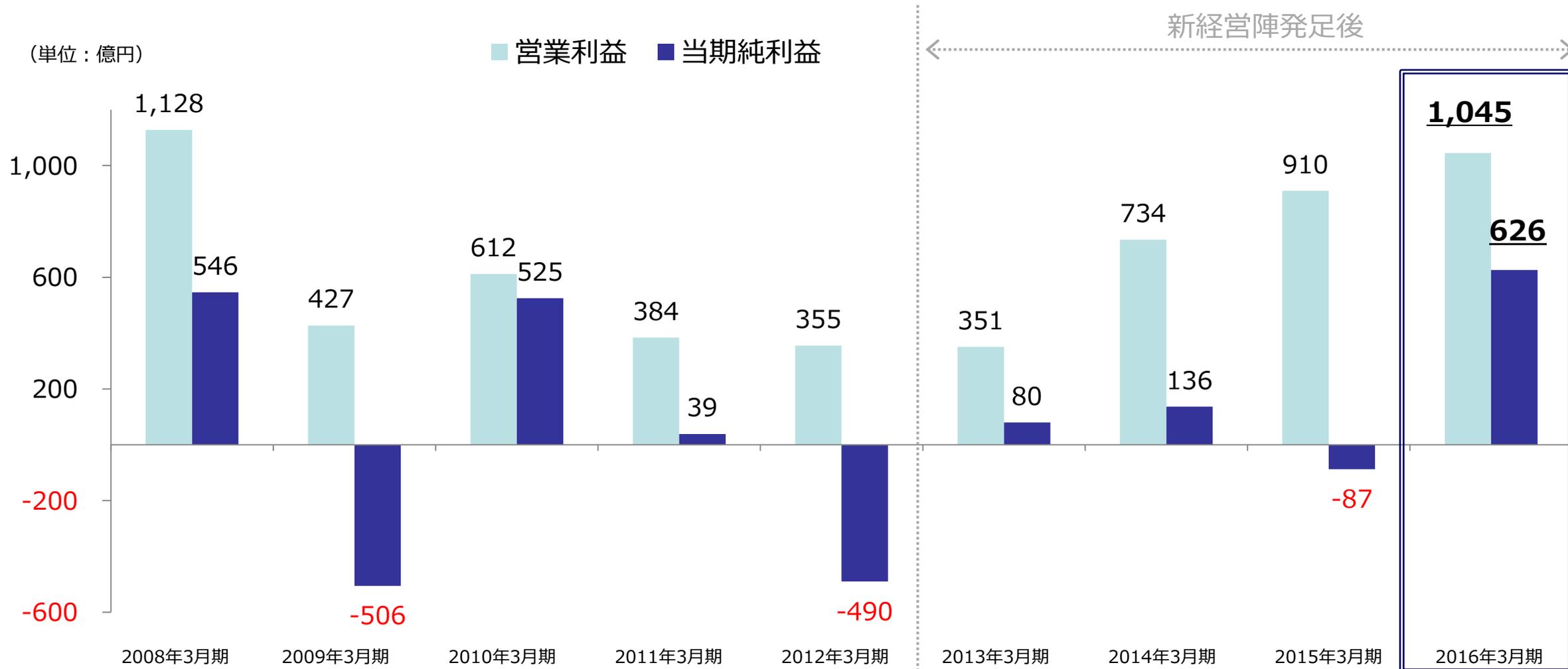
- 海外経済の成長減速等による先行き不透明感の高まり
- 円高トレンドの継続

2017年3月期経営方針・通期業績見通し

- 16CSP最終年度の目標達成に向けた活動の推進と業務プロセス改革による企業体質の強化
- 円高の影響により、営業利益は減少の見通しだが、実質的利益成長率は16CSPに沿った+7%を見込む
- 当期純利益は、外部環境悪化の影響を吸収し、2期連続で過去最高となる見通し

2016年3月期 連結実績（営業利益、当期純利益）

- 好調な医療事業が全社業績を牽引し、営業利益は2008年3月期以来、8期ぶりに1,000億円を達成
- 当期純利益※は過去最高の626億円



16CSP経営目標：2016年3月期実績および目標水準

- 全ての評価指標が前期比で改善、ROEは16CSP経営目標の15%水準へ到達

	2015年3月期 (実績)	2016年3月期 (実績)	16CSP 経営目標
資本効率性 ROE	△2.6%	17%	15%
事業収益性 営業利益率	12%	13%	15%
事業成長性 EBITDA	1,416億円	+9%成長	期間平均成長率 2桁
健全性 自己資本比率	33%	38%	50%

事業環境認識

- ① 2017年3月期 : 新興国等の海外経済の成長減速による先行き不透明感の高まり
円高トレンド継続
- ② 16CSP期間 : 当社の事業に直接影響する環境認識に大きな変化はない

①

2017年3月期における環境認識

- 中国を始めとした新興国経済の成長率鈍化
- 円高トレンドの進行
- 科学分野の顧客ニーズの多様化
- デジカメ市場の縮小
- 少子高齢化
- 医療ニーズの増大
- 医療費抑制圧力
- 症例数の増加と施設数の減少

②

16CSP期間における環境認識

経営方針

16CSPの最終年度（2021年3月期）の目標達成に向けた活動の推進と業務プロセス改革による企業体質の強化

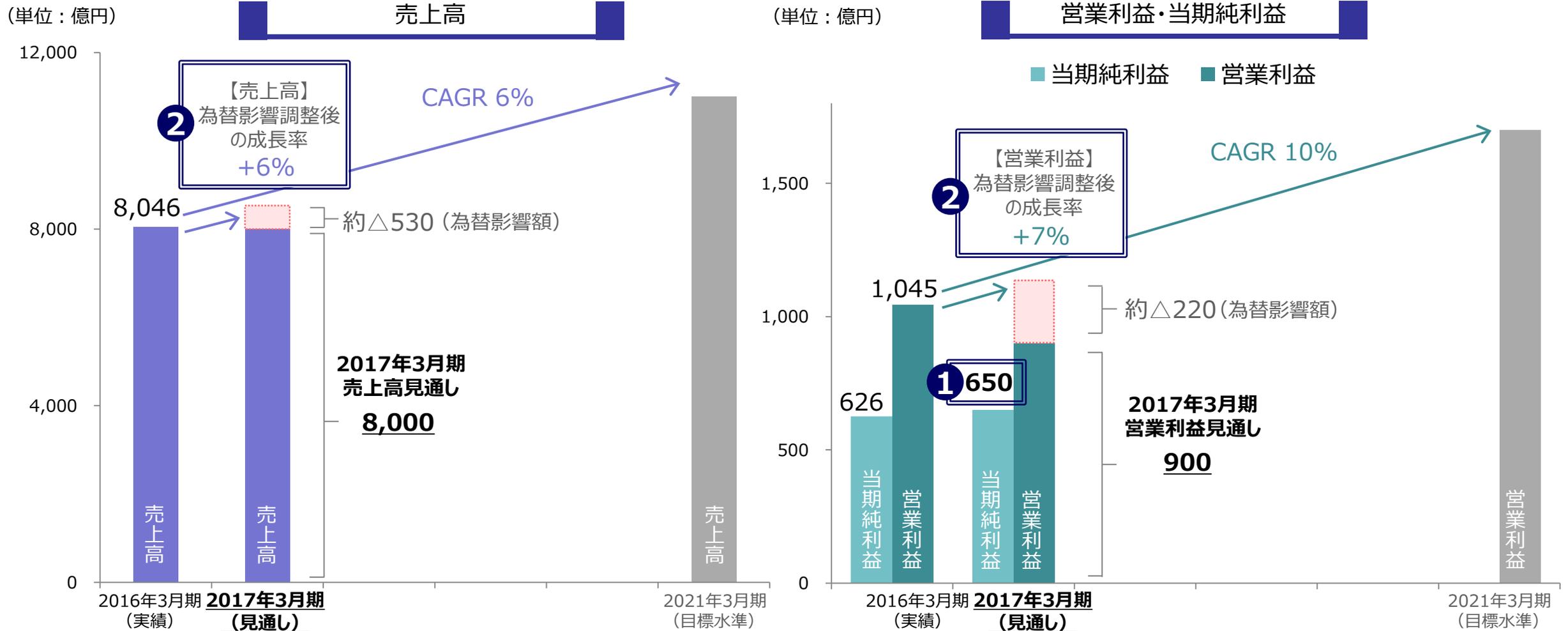
■ 経営資源の最大活用を前提とした、事業拡大、体質強化のための活動推進

- 生産能力拡大のための工場再開発に伴う製造要員
- 保守体制強化のためのサービス要員
- 品質・製品法規制対応、内部統制、コンプライアンス強化 等

■ グローバルベースでの業務プロセス改革による業務効率化・生産性の向上

2017年3月期 業績見通し

- ① 円高の影響により営業利益は前年同期比で減少も、当期純利益は過去最高の650億円（2期連続更新）
- ② 実質（為替影響調整後）前年同期比で増収増益となり、16CSPに沿った進捗となる見込み



医療

- 消化器内視鏡事業の安定した成長と収益基盤の強化
- 外科事業の売上拡大と収益性向上

<BU別主な戦略>

- GIR : 原価低減・販管費効率化による収益性向上
- GS : ディスポーザブル・デバイスビジネスへの取り組み強化と収益性の向上
- UG : 強い商品による着実な売上拡大
- ENT : ディエゴエリートを中心とした内視鏡下副鼻腔手術(ESS)ビジネスの拡大
- MS : 顧客接点強化による最適なサービス提供

科学

- 顧客接点強化に向けた戦略の継続的実行

映像

- 機能軸との連携強化により、費用を売上規模に見合ったレベルに圧縮

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2016年3月期 連結決算概況 2017年3月期 通期見通し

2016年5月2日
オリンパス株式会社
取締役副社長執行役員
CFO
竹内 康雄

2016年3月期実績 連結業績概況

過去最高の収益率

- ① 売上原価率の改善により、営業利益率は過去最高の13%
 ② 経常利益率、当期純利益率についても過去最高の収益率

通期実績 (4-3月)

4Q実績 (1-3月)

(単位：億円)	2015年3月期	2016年3月期	増減額	前期比	2015年3月期	2016年3月期	増減額
売上高	7,647	8,046	+399	+5%	2,147	2,120	△1%
売上原価 (売上原価率)	2,748 (35.9%)	2,693 (33.5%)	△55 (△2.4pt)	△2%	752 (35.1%)	706 (33.3%)	△6%
販管費 (販管費率)	3,989 (52.2%)	4,308 (53.5%)	+319 (+1.3pt)	+8%	1,105 (51.4%)	1,106 (52.2%)	+0%
営業利益 (営業利益率)	910 (11.9%)	1,045 (13.0%)	+135 (+1.1pt)	+15%	289 (13.5%)	308 (14.5%)	+7%
経常利益 (経常利益率)	728 (9.5%)	909 (11.3%)	+181 (+1.8pt)	+25%	246 (11.5%)	262 (12.3%)	+7%
当期純利益(※) (当期純利益率)	△87 (-%)	626 (7.8%)	+713 (-pt)	-	△407 (-%)	197 (9.3%)	-
EPS (円)	△26	183	+209				
円/USドル	110円	120円	10円 (円安)				
円/Euro	139円	133円	△6円 (円高)				
影響額：売上高	-	+192億円					
影響額：営業利益	-	+113億円					

2016年3月期実績 セグメント別概況

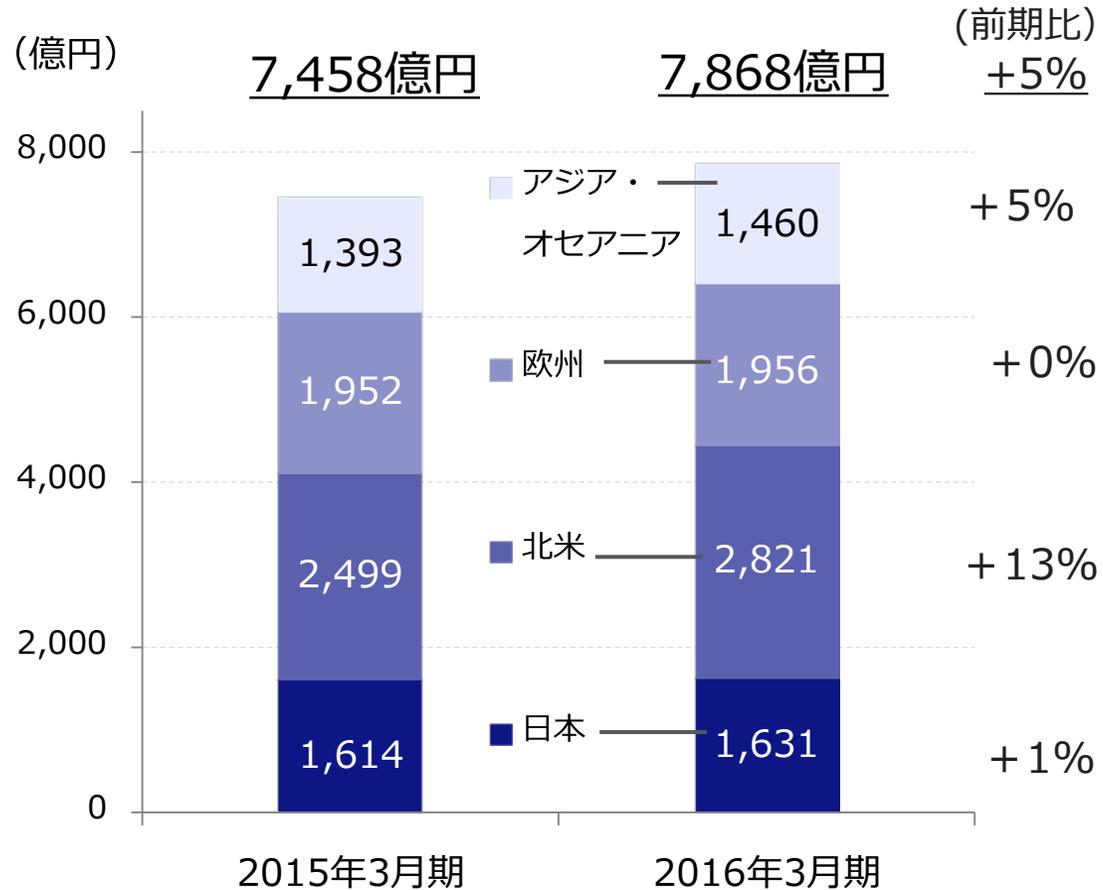
- ① 医療事業：過去最高の売上高、営業利益を計上
- ② 科学事業：事業環境の悪化により減収も、製造原価率改善等、継続的なコスト削減により増益
- ③ 映像事業：構造改革の効果により、損益は大きく改善

(単位：億円)		通期実績 (4-3月)				4Q実績 (1-3月)			
		2015年 3月期	2016年 3月期	増減額	前期比	2015年 3月期	2016年 3月期	増減額	前年同期比
医療	売上高	5,583	① 6,089	+506	+9%	1,602	① 1,637	+35	+2%
	営業利益	1,249	① 1,402	+153	+12%	409	① 416	+7	+2%
科学	売上高	1,039	② 1,016	△23	△2%	311	281	△30	△10%
	営業利益	68	② 85	+16	+24%	33	29	△3	△11%
映像(※)	売上高	794	③ 783	△12	△1%	188	③ 163	△26	△14%
	営業利益	△117	③ △21	+96	-	△68	③ △22	+46	-
その他(※) (新事業)	売上高	230	158	△72	△32%	45	40	△5	△12%
	営業利益	△10	△58	△48	-	△6	△10	△4	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	△281	△364	△83	-	△79	△106	△27	-
連結合計	売上高	7,647	8,046	+399	+5%	2,147	2,120	△26	△1%
	営業利益	910	1,045	+135	+15%	289	308	+19	+7%

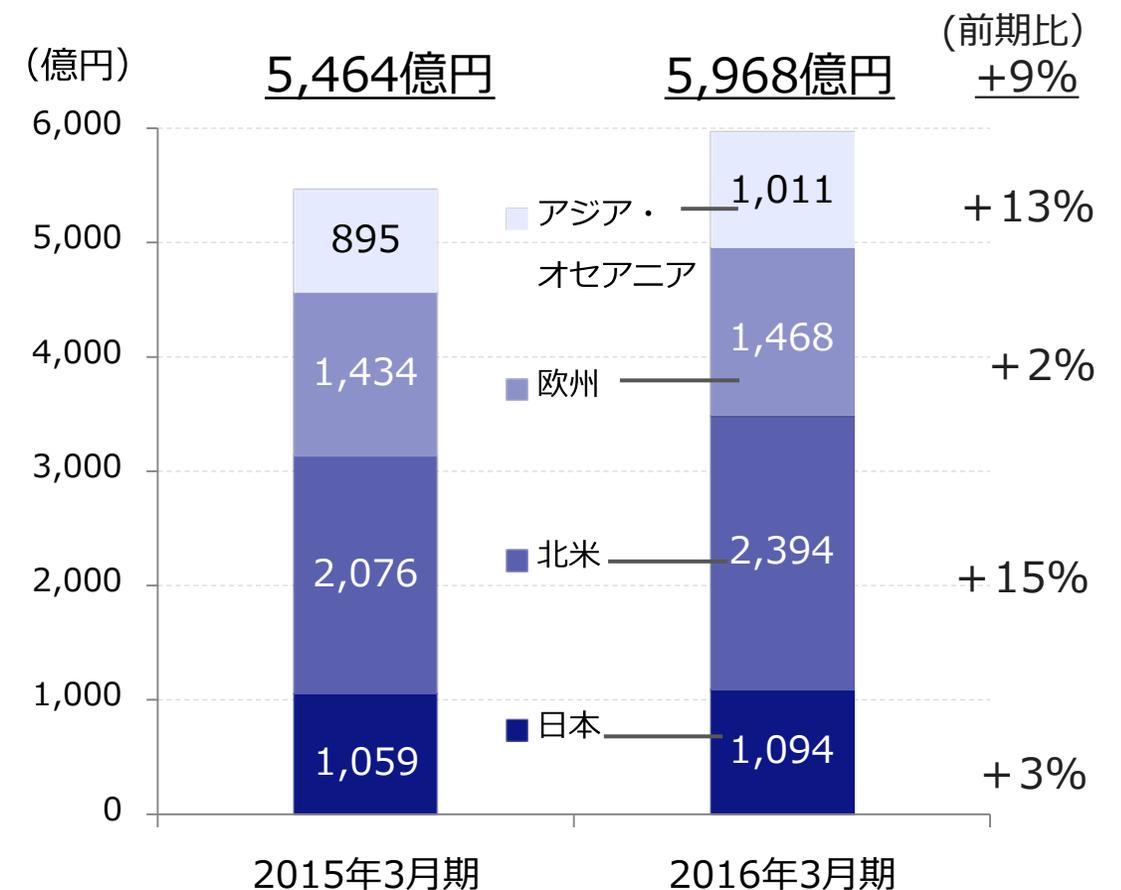
2016年3月期実績 地域別売上高

- 連結 : 好調な医療事業が全社業績を牽引し、全地域でプラス成長
- 医療 : 海外ビジネスが好調に推移し、全地域で増収

連結 (4-3月)



医療 (4-3月)



連結貸借対照表 (2016年3月末)

- ① 有利子負債を約330億円圧縮、自己資本比率は38.2%
- ② デジカメ在庫の削減は予定通りに進捗し、93億円減の144億円

(単位：億円)	2015年 3月末	2016年 3月末	増減額
流動資産 (デジカメ在庫)	5,775 (237)	5,207 (144)	△568 (△93)
有形固定資産	1,501	1,661	+159
無形固定資産	1,806	1,508	△299
投資その他資産	1,732	1,631	△102
資産合計	10,816	10,006	△809

	2015年 3月末	2016年 3月末	増減額
流動負債	3,748	2,666	△1,082
固定負債 (内：社債・長期借入金)	3,495 (2,533)	3,497 (2,645)	+2 (+112)
純資産	3,573	3,843	+270
(自己資本比率)	(32.9%)	(38.2%)	(5.3pt)
負債 純資産 合計	10,816	10,006	△809

- ① 有利子負債： 3,211億円 (2015年3月末比 △333億円)
- 純有利子負債： 1,546億円 (2015年3月末比 +100億円)

連結キャッシュフロー計算書（2015年4月～2016年3月）

① FCFのマイナスは米国司法省との和解を受け、罰金及び制裁金（約725億円）の支払いを行ったことが主要因

(単位：億円)		2015年3月期	2016年3月期	増減
売上高		7,647	8,046	+399
営業利益		910	1,045	+135
	(営業利益率)	11.9%	13.0%	+1.1pt
営業CF		668	486	△182
投資CF		△ 396	△ 529	△133
財務CF		△ 702	△ 339	+363
キャッシュフロー		△ 430	△ 381	+48
フリーキャッシュフロー		272	△ 43	△315
現金及び現金同等物期末残高		2,098	1,663	△435
減価償却費		412	399	△13
のれん償却額		94	99	+4
設備投資額		477	644	+167

2017年3月期 通期業績見通し

2017年3月期 通期業績見通し

- 円高の影響により、売上高は8,000億円、営業利益は900億円の見通し
- 16CSP最終年度の目標達成に向けた投資の継続
- 営業外収支および特別損益の改善により、当期純利益は過去最高の650億円

(単位：億円)	2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (見通し)	増減額	前期比	為替影響調整後
売上高	8,046	8,000	△46	△1%	+6%
売上原価 (売上原価率)	2,693 (33.5%)	2,690 (33.6%)	△3 (+0.1pt)	△0%	-
販管費 (販管費率)	4,308 (53.5%)	4,410 (55.1%)	+102 (+1.6pt)	+2%	-
営業利益 (営業利益率)	1,045 (13.0%)	900 (11.3%)	△145 (△1.7pt)	△14%	+7%
経常利益 (経常利益率)	909 (11.3%)	800 (10.0%)	△109 (△1.3pt)	△12%	
当期純利益(※) (当期純利益率)	626 (7.8%)	650 (8.1%)	+24 (+0.3pt)	+4%	
EPS (円)	183	190	+7	+4%	
円/USドル	120円	108円	△12円 (円高)		
円/Euro	133円	120円	△13円 (円高)		

2017年3月期 セグメント別業績見通し

- ① 医療事業：円高の影響により減益も、引き続き全社業績を牽引。実質ベースでは、16CSPに沿った成長率
- ② 映像事業：販管費を売上規模に見合ったレベルに圧縮し、ブレークイーブンとなる見込み

(単位：億円)		2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (見通し)	前期比 増減額	前期比 (%)	為替影響調整 成長率
医療	売上高	6,089	6,100	+11	+0%	+7%
	営業利益	1,402	1,270	△132	△9%	+5%
科学	売上高	1,016	1,000	△16	△2%	+5%
	営業利益	85	60	△25	△29%	+7%
映像	売上高	783	700	△83	△11%	△6%
	営業利益	△21	0	+21	-%	-%
その他 (新事業)	売上高	158	200	+42	+27%	+29%
	営業利益	△58	△ 60	+2	-%	-%
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-
	営業利益	△364	△ 370	△6	-%	-%
合計	売上高	8,046	8,000	△46	△1%	+6%
	営業利益	1,045	900	△145	△14%	+7%

2017年3月期 財務施策

16CSP
方向性



2017年3月期
財務施策

自己資本の安定的な確保

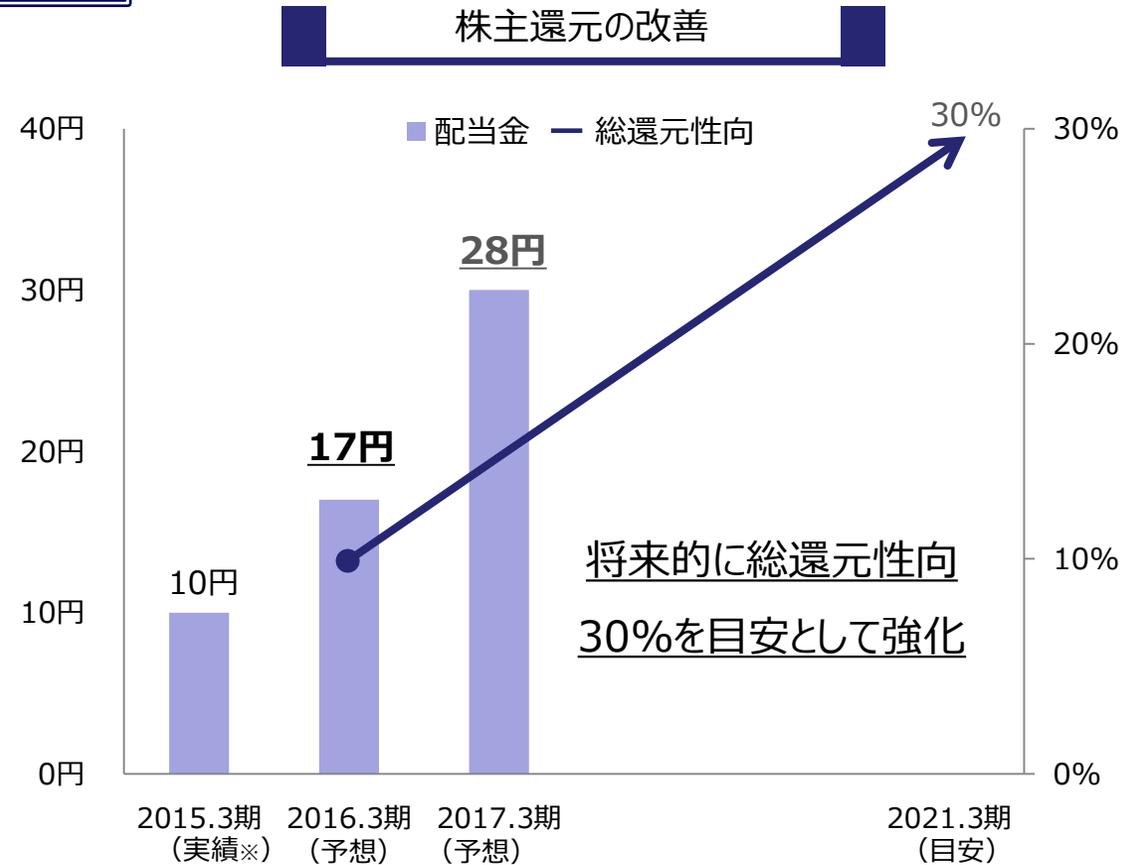
有利子負債の戦略的コントロール

株主還元の段階的引き上げ

配当予想

2016年3月期 期末配当17円

2017年3月期 年間配当28円を予定



OLYMPUS

The Olympus logo consists of the word "OLYMPUS" in a bold, blue, sans-serif font. A horizontal yellow line is positioned directly beneath the text, extending across its full width.

參考資料

【参考資料】 2017年3月期 連結業績見通し（上期／下期）

(単位：億円)	2016年3月期（実績）		2017年3月期（見通し）		前年同期比（%）	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高	3,958	4,088	3,800	4,200	△4%	+3%
営業利益 (営業利益率)	501 (12.7%)	544 (13.3%)	370 (9.7%)	530 (12.6%)	△26%	△3%
営業外収支	△ 66	△ 70	△ 50	△ 50	-	-
経常利益 (経常利益率)	435 (11.0%)	474 (11.3%)	320 (8.4%)	480 (11.4%)	△26%	+1%
当期純利益 (当期純利益率)	358 (9.0%)	268 (6.6%)	270 (7.1%)	380 (9.1%)	△25%	+42%

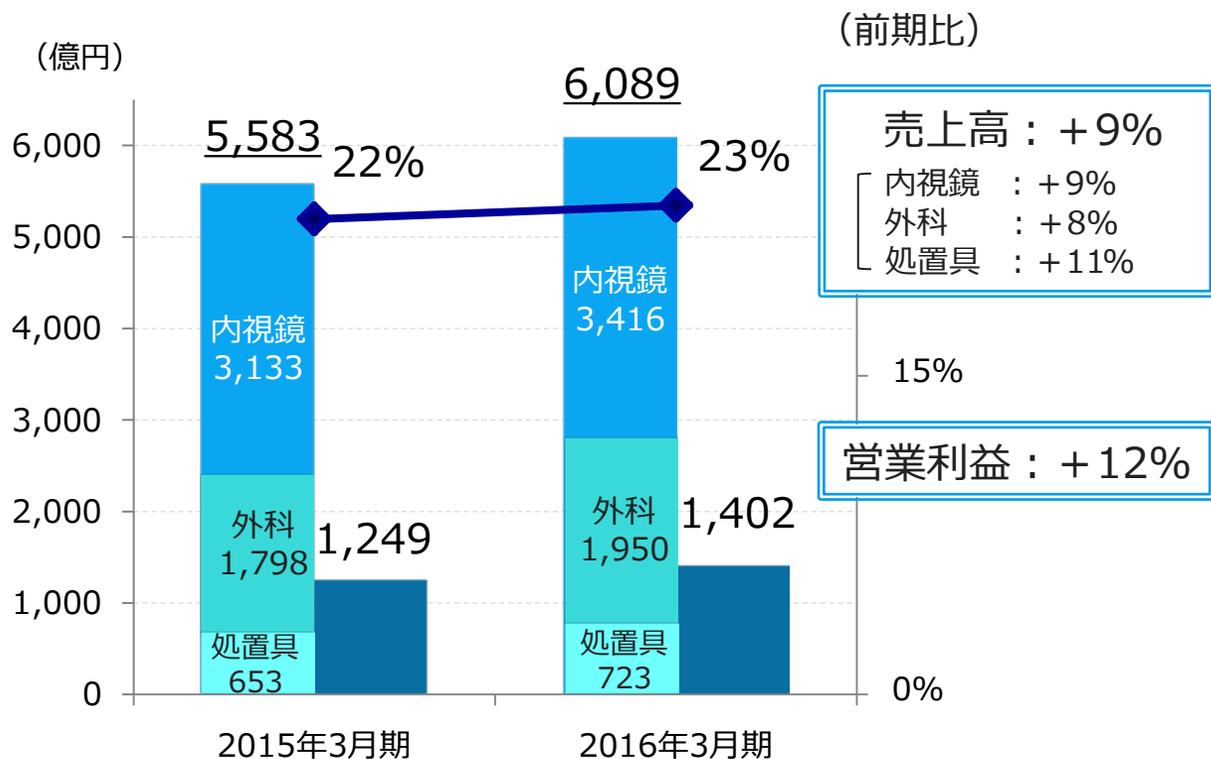
【参考資料】 2017年3月期 セグメント別業績見通し（上期／下期）

(単位：億円)		2016年3月期（実績）		2017年3月期（見通し）		前年同期比（%）	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期
医療	売上高	2,979	3,110	2,920	3,180	△2%	+2%
	営業利益	679	723	590	680	△13%	△6%
科学	売上高	485	531	470	530	△3%	△0%
	営業利益	33	52	10	50	△70%	△3%
映像	売上高	415	368	320	380	△23%	+3%
	営業利益	0	△21	△ 20	20	-	-
その他 (新事業)	売上高	79	79	90	110	+14%	+40%
	営業利益	△33	△26	△ 30	△ 30	-	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-
	営業利益	△179	△185	△ 180	△ 190	-	-
連結合計	売上高	3,958	4,088	3,800	4,200	△4%	+3%
	営業利益	501	544	370	530	△26%	△3%

【参考資料】 2016年3月期実績 医療事業

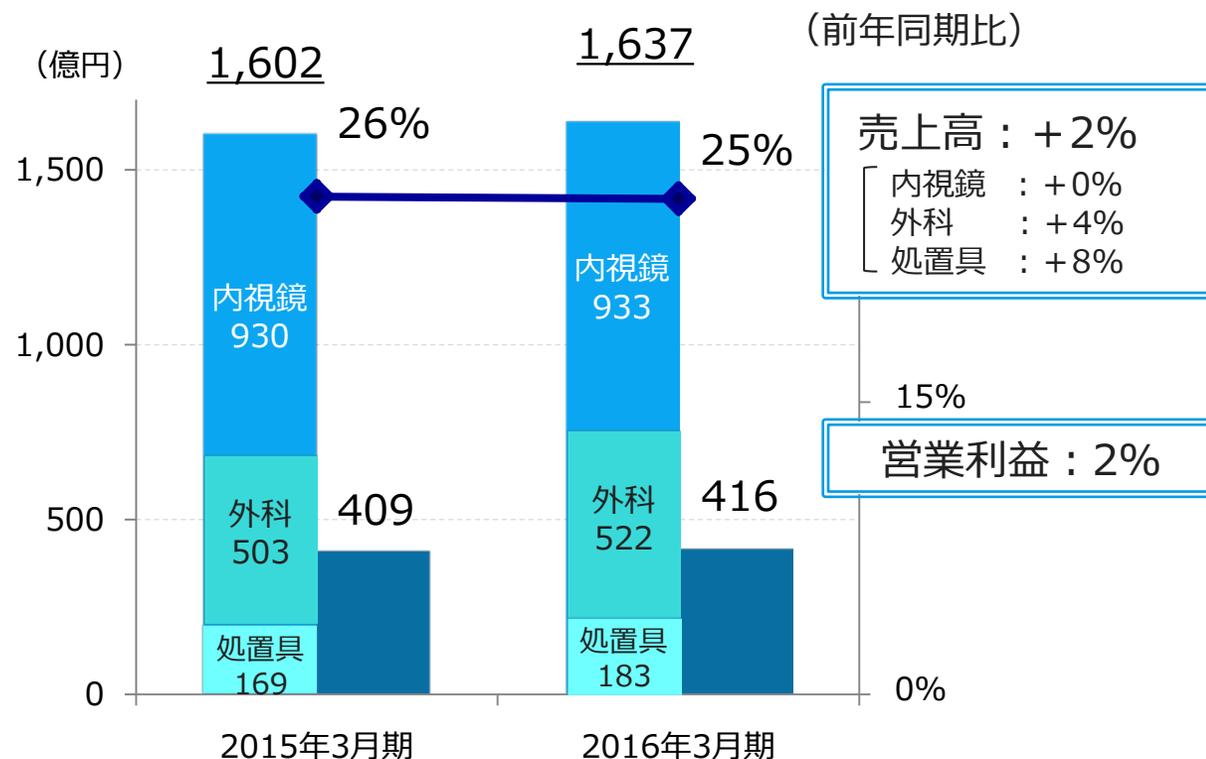
通期（4-3月）

■ 売上高 ■ 営業利益 ◆ 営業利益率



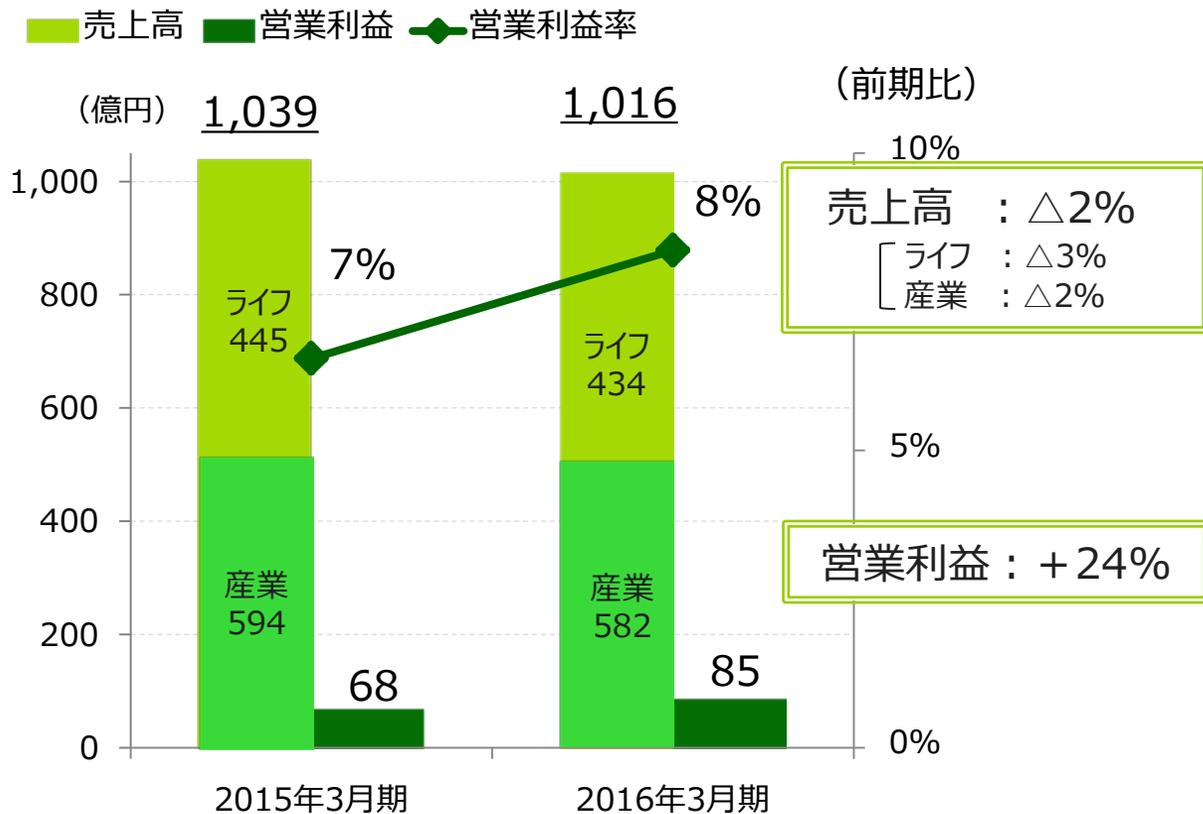
4Q（1-3月）

■ 売上高 ■ 営業利益 ◆ 営業利益率

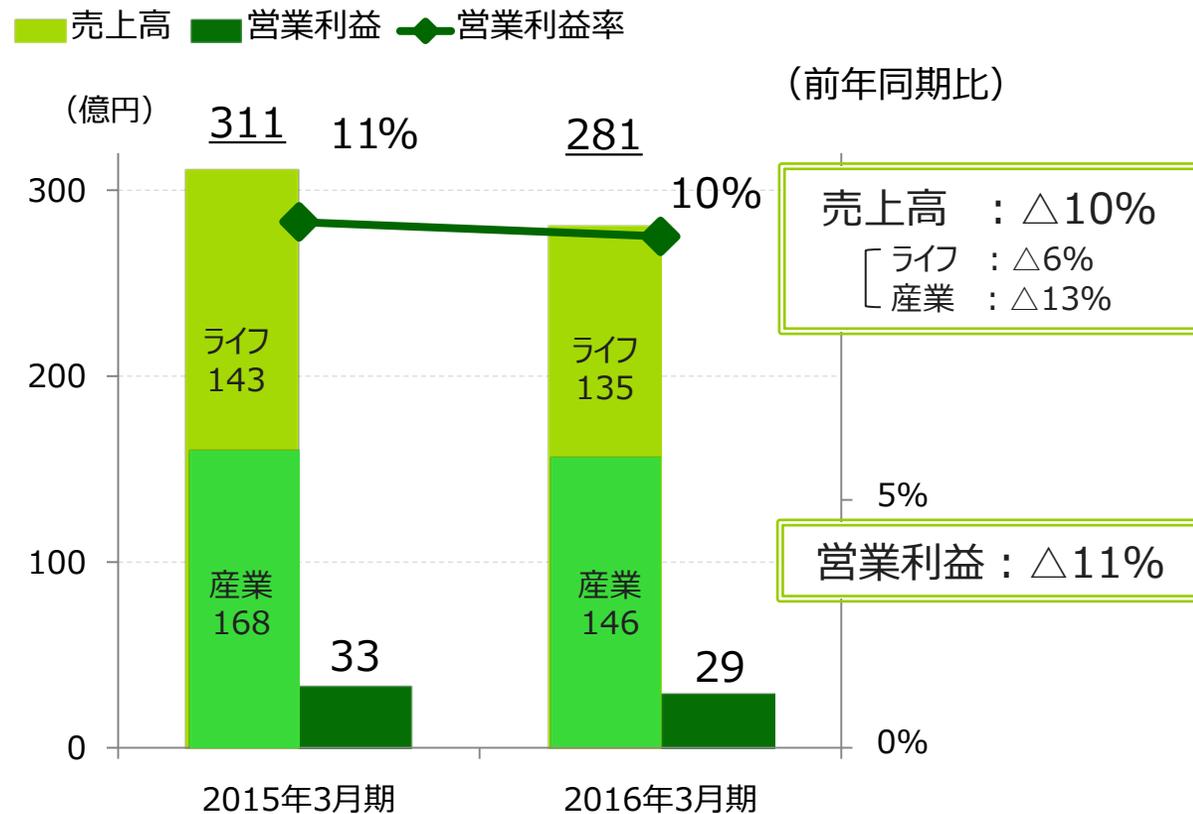


【参考資料】 2016年3月期実績 科学事業

通期（4-3月）

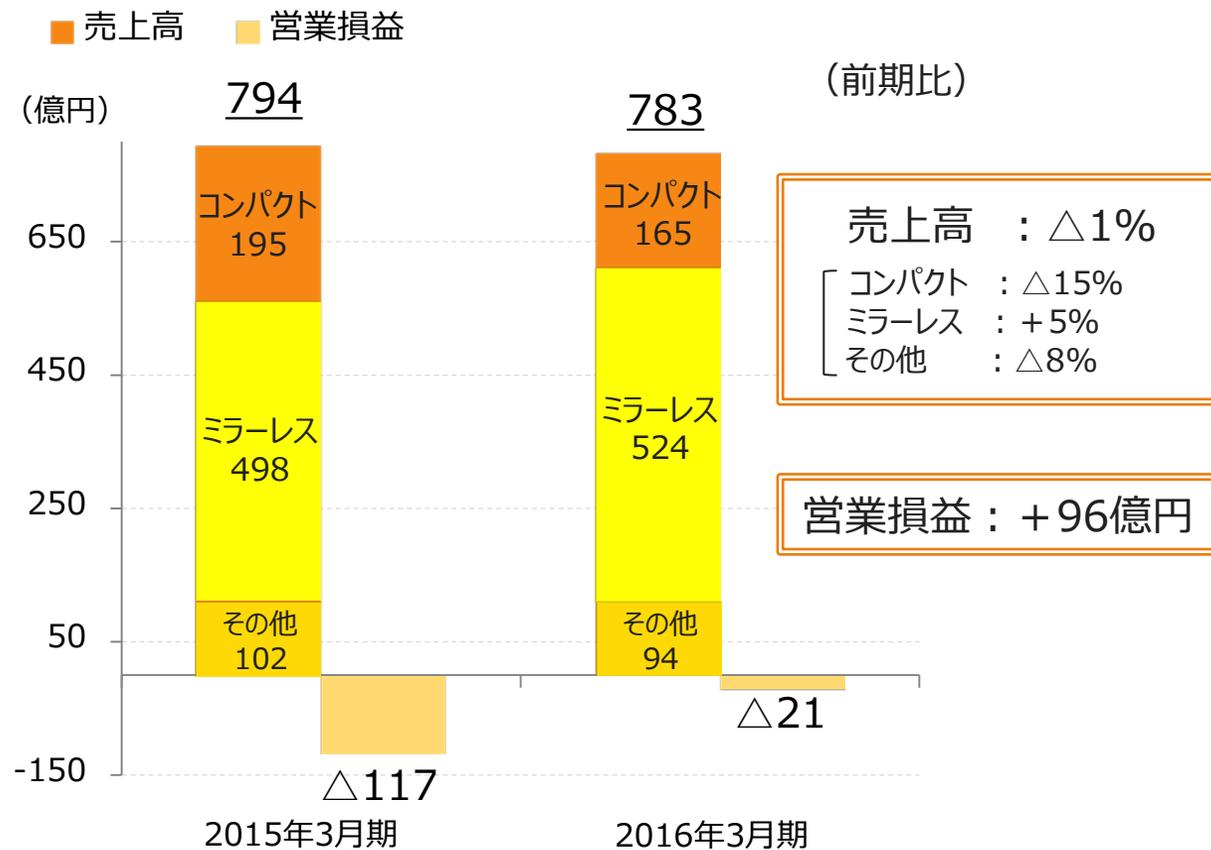


4Q（1-3月）

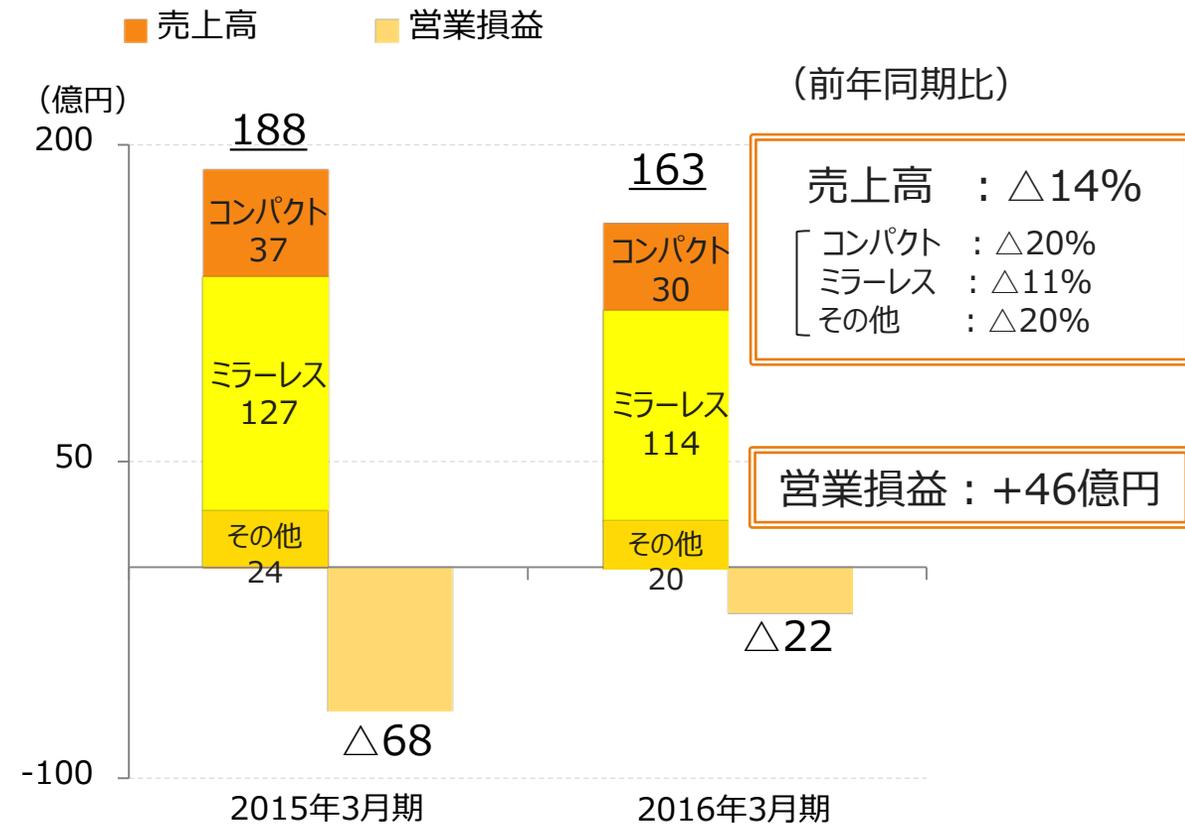


【参考資料】 2016年3月期実績 映像事業

通期（4-3月）



4Q（1-3月）



OLYMPUS

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。